

新しい学校だより

～市民とともに描く、新しい学校のかたち～

9月7日（日）防災交流館ミモーロにて、市民を対象とした「新しい学校づくりワークショップ」を開催しました。当日は保護者や地域の方、教育関係者など幅広い年代・立場の22名にご参加いただき、御所市のこれからの教育や学校の姿について語り合いました。

今回のワークショップは、すでに実施した児童向け・教職員向けのワークショップに続くもので、「一つの学校プロジェクト」の一環として実施しました。会場には、5・6年生が「こんな学校だったらいいな」をテーマに作成した作品や、教職員ワークショップで出された意見も展示され、参加者の思考を深める手がかりとなりました。

今回のテーマは、「新しい学校が地域や子どもにとってどんな場であってほしいか」で、はじめに個人で考えを整理したあと、異なる世代や立場の参加者で構成したグループで話し合いました。

「学びだけでなく、地域とつながる場になってほしい」

「防災拠点や地域交流の場としても開かれた学校を」

「子どもたちがのびのび過ごせる自然豊かな環境を残してほしい」

「大人も楽しく学べる機会を作って欲しい」

「伝統や歴史がなくなる不安もあるが、新しい文化が生まれる期待もある」

といった多様な声が寄せられました。

特に印象的だったのは、世代や立場の違いを越えて真剣に耳を傾け合い、共に未来を考える姿です。「子どもたちに何を残したいか」「地域としてどんな学校であって欲しいか」等をめぐって、対話が深まりました。

今回寄せられた意見は、今後の施設設計や学校運営の検討にも活かしていきます。

